

令和7年度 三浦市学力調査及び全国学力・学習状況調査の三浦市の調査結果について

三浦市教育委員会

三浦市では、以下のことを目指して「みうらっ子学力アッププロジェクト」を進めています。

目的 ◎みうらっ子の自己肯定感を高め、自らの成長が実感できる学びづくり

☆みうらっ子の学力の向上と定着

☆教員の指導力の向上と改善（育成）

☆保護者の家庭学習への意識への向上

1 調査の概要と目的

令和7年4月に実施した「令和7年度 三浦市学力調査」及び「令和7年度全国学力・学習状況調査」の三浦市立小・中学校の調査結果の概要をお知らせします。

三浦市学力調査は、「みうらっ子学力アッププロジェクト」の目的達成のために、児童・生徒の学力や学習状況を経年的に把握し、学校における児童・生徒への教育指導の充実や、児童・生徒の学習状況の改善等に役立てるために行われるものです。

全国学力・学習状況調査は、児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるために行われるものです。

なお、調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であることも踏まえて、調査結果を報告するものです。

2 「みうらっ子学力アッププロジェクト」における三浦市の今後の取組について

三浦市教育委員会では、三浦市の児童・生徒が確かな学力を身につけていくため、本調査の分析と考察を行いました。調査結果から学習に関する基礎基本の定着に関して成果が見られるものの、考えを説明するなどの思考力・判断力・表現力の育成に関する課題が明らかとなりました。

今後も、「みうらっ子学力アッププロジェクト」の目的達成を目指し、分析結果や各校での取組状況を共有する場を設け、情報提供と共有化を行い、授業力向上に向けて研修の充実や校内研究の共有化を図ってまいります。さらに、各学校では全国学力・学習状況調査該当学年（小6・中3）に加えて三浦市学力調査実施該当学年（小2～小5・中1、2）、そして小1の全学年において授業や学習状況の見直しを図り、授業改善につなげていく取組を行ってまいります。

子どもたちの生きる力（確かな学力、豊かな人間性、健康・体力）を向上させ、自己肯定感を高めていくためには、家庭・地域・学校・教育委員会の連携が重要であると考えています。三浦市の子どもたちが、よりよい生活習慣と学習習慣を身につけ、生涯にわたって学び続けるために、引き続きご理解とご協力をよろしくお願いします。

3 実施状況

(1) 調査の実施日 令和7年4月17日(木)

(2) 調査の対象

三浦市学力調査 小学校第2～5学年 中学校第1、2学年
全国学力・学習状況調査 小学校第6学年 中学校第3学年

(3) 実施項目

- ・教科に関する調査(小学校:国語、算数、理科 中学校:国語、数学、理科)
- ・児童・生徒質問調査

(学習意欲や学習方法、生活、PCやタブレットなどのICT機器等に関する質問)

※理科及び児童・生徒質問調査は全国学力・学習状況調査のみ

(4) 実施校数

小学校 7校 中学校 3校

(5) 実施人数

小学校 2年生:212名 3年生:215名 4年生:221名 5年生:239名 6年生:209名

中学校 1年生:214名 2年生:229名 3年生:254名

(6) その他

序列化や過度な競争につながらないようにするため、各学校の調査結果については、市としては公表しません。

全国学力・学習状況調査の平均正答数、平均正答率等を見ると、地域の規模等(公立:大都市、中核市、その他の市、町村、へき地)による大きな差はみられませんでした。(文部科学省 国立教育政策研究所「令和7年度全国学力・学習状況調査報告書」より)

4 結果

(1) 三浦市立小・中学校の教科別平均正答率等

※目標値・・・問題作成の際に「おおむね満足」と言える水準として設定した目標とする正答率。

【小学校2年生】(三浦市学力調査)

	国語			算数		
	教科総合	基礎	応用	教科総合	基礎	応用
三浦市	73.8	82.3	28.0	74.3	77.3	63.0
目標値	72.5	74.2	43.4	74.8	78.9	73.6
全国	83.0	90.2	44.4	85.4	87.6	77.3

【小学校3年生】（三浦市学力調査）

	国語			算数		
	教科総合	基礎	応用	教科総合	基礎	応用
三浦市	73.6	76.0	59.6	72.2	78.6	48.1
目標値	72.2	75.3	67.8	74.2	82.4	53.9
全国	83.6	85.2	74.5	83.5	88.0	66.5

【小学校4年生】（三浦市学力調査）

	国語			算数		
	教科総合	基礎	応用	教科総合	基礎	応用
三浦市	63.2	67.4	48.6	63.1	73.7	45.2
目標値	60.5	63.9	50.9	59.0	61.7	46.3
全国	75.3	79.5	60.7	73.0	82.3	57.2

【小学校5年生】（三浦市学力調査）

	国語			算数		
	教科総合	基礎	応用	教科総合	基礎	応用
三浦市	59.1	63.5	36.8	61.2	67.1	43.6
目標値	50.0	50.9	45.5	62.0	65.6	49.7
全国	65.6	69.0	45.5	71.9	77.6	54.6

【小学校6年生】（全国学力・学習状況調査）

	国語	算数	理科
三浦市（公立）	58.0%	51.0%	50.0%
神奈川県（公立）	66.0%	59.0%	57.0%
全国（公立）	66.8%	58.0%	57.1%

【中学校1年生】（三浦市学力調査）

	国語			数学		
	教科総合	基礎	応用	教科総合	基礎	応用
三浦市	58.7	62.2	38.1	56.5	61.4	37.8
目標値	53.7	53.9	47.7	54.9	55.7	44.2
全国	64.5	67.1	48.9	62.8	67.7	44.2

【中学校2年生】（三浦市学力調査）

	国語			数学		
	教科総合	基礎	応用	教科総合	基礎	応用
三浦市	67.8	71.0	48.7	51.5	57.3	28.6
目標値	60.0	67.7	32.8	50.8	54.2	34.9
全国	72.7	75.7	54.9	55.6	61.3	33.1

【中学校3年生】（全国学力・学習状況調査）

	国語	数学	理科
三浦市（公立）	49.0%	39.0%	478
神奈川県（公立）	55.0%	51.0%	510
全国（公立）	54.3%	48.3%	503

※理科はIRTスコアでの表示です。

「IRT」とは、児童・生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童・生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童・生徒の学力スコアを推定する統計理論です。

「IRTスコア」とは、IRTに基づいて500を基準にした得点で表すものです。

5 三浦市学力調査結果について

各学年とも、目標値との差で考えるとほぼ±5ポイントの範囲であり、おおむね満足する結果と言えます。昨年度の調査結果よりも上昇傾向にある学年が多数見られました。

全国平均との差で考えると、教科総合、基礎は多くの学年が10ポイント前後下回りました。応用については、もう少し大きく下回りました。しかし、どの学年も昨年度の調査結果と比較すると上昇傾向にありました。

小学校国語の応用（登場人物の心情について説明したり、よりよい文章に修正したりするなどの問題）における正答率の低さが特に顕著であり、条件に沿って記述する問題の無解答率が高いという傾向があります。

また、算数・数学においても、問題の求め方を式と言葉で説明したりするような記述タイプの問題に対して苦労している傾向は、小学校の算数・中学校の数学でも同様です。説明する問題の正答率は低く、無解答率が高い傾向があります。

この傾向は昨年度と同様であり、やや改善傾向にあるものの、まだ課題が残っていると言えます。

これらのことから、まずは自分の考えをもつこと、次にそれを表現することについての学習の機会をより多く設け、児童・生徒のつまずきに対して適切な支援が必要だと考えられます。複数の資料・データから必要な情報を読み取って考えるタイプの問題につまずきが多いので、そのような学習の機会も多く取ることが重要です。

6 全国学力・学習状況調査結果について

○ 小学校6年生について

(1) 各教科の概要（問題番号）

【国語】 〈おおむね、理解している内容〉：○ 〈課題がある内容〉：●

- 図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(2二)
- 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができる。(3一)
- 時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。(3二(1))
- 目的や意図に応じて、日常生活の中から課題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる。(1一)
- 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。(3二(2))
- 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる。(3三(1))
- 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる。(3三(2))

【算数】 〈おおむね、理解している内容〉：○ 〈課題がある内容〉：●

- 棒グラフから、質問間の関係を読み取ることができる。(1(1))
- 角の大きさについて理解している。(2(3))
- 異分母の分数の加法の計算をすることができる。(3(4))
- 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができる。(4(1))
- 目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる。(1(2))
- 平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができる。(2(1))
- 台形の意味や性質について理解している。(2(2))
- 基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できる。(2(4))
- 分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できる。(3(2))
- 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できる。(4(2))

【理科】 〈おおむね、理解している内容〉：○ 〈課題がある内容〉：●

- 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができる。(1(3))
- 電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いている。(2(3))
- 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができる。(1(2))
- 身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いている。(2(1))
- 乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いている。(2(4))

●発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができる。

(3 (3))

●レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができる。(3 (4))

(2) 児童質問調査の結果概要

〈良好な項目〉(90%以上の児童が肯定的な回答をした項目など) ※「どちらかといえば」「ときどき」を含む

○毎日、同じくらいの時刻に起きていますか

○先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

○人が困っているときは、進んで助けていますか

○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

○人の役に立つ人間になりたいと思いますか

○友達関係に満足していますか

○普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか

○授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか

○算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

○理科の授業では、観察や実験をよく行っていますか

〈課題がある項目〉

●あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか(雑誌、新聞、教科書は除く)

(3) 調査結果から分かること

教科に関する調査の平均正答率では、国語については、全国(公立)と比べ、やや低い傾向がありました。我が国の言語文化に関する事項などの知識・技能の部分については、おおむね習得している傾向が見られました。一方、必要な情報を見付けたり、要旨を把握したりするなどの思考力・判断力・表現力に課題が見られました。

算数についても、全国(公立)と比べ、やや低い傾向がありました。角の大きさについての理解や分数の加法の計算などの知識・技能については、おおむね習得している傾向が見られました。一方、自分の考えを記述するなどの思考力・判断力・表現力に課題が見られました。

理科についても、全国(公立)と比べ、やや低い傾向がありました。磁力についての理解や顕微鏡の操作についての知識・技能については、おおむね習得している傾向が見られました。一方、自分の考えを記述するなどの思考力・判断力・表現力に課題が見られました。

質問調査では、自分自身に関することや、「人が困っているときは、進んで助けている」や、「人の役に立つ人間になりたい」などの人間関係についてのことに、肯定的な回答が多く見られました。一方で、家にある本の数については少ない傾向が見られました。

○中学校3年生について

(1) 各教科の概要 (問題番号)

【国語】〈おおむね、理解している内容〉：○ 〈課題がある内容〉：●

- 目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(1 二)
- 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。(2 二)
- 表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。(3 一)
- 文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができる(3 二)
- 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができる。(1 四)
- 資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。(2 四)
- 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができる。(3 四)
- 読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができる。(4 一)
- 読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができる。(4 二)

【数学】〈おおむね、理解している内容〉：○ 〈課題がある内容〉：●

- 必ず起こる事柄の確率について理解している。(7 (1))
- 素数の意味を理解している。(1)
- 数量を文字を用いた式で表すことができる。(2)
- 一次関数 $y=ax+b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めることができる。(4)
- 相対度数の意味を理解している。(5)
- 式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができる。(6 (2))
- 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる。(6 (3))
- 統一的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができる。(9 (2))
- ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができる。(9 (3))

【理科】 〈おおむね、理解している内容〉：○ 〈課題がある内容〉：●

- 科学的な探求を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探求から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現することができる。(1 (6))
- 身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定することができる。(1 (2))
- 水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いている。(1 (4))

(2) 生徒質問調査の結果概要

〈良好な項目〉(90%以上の生徒が肯定的な回答をした項目) ※「どちらかといえば」「ときどき」を含む

- 先生は、あなたのよいところを認めてくれていますか
- 人が困っているときは、進んで助けていますか
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

○人の役に立つ人間になりたいと思いますか

○友達関係に満足していますか

○普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか

○授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか

○道德の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか

○国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

〈課題がある項目〉

●あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（一般の雑誌、新聞、教科書は除く）

(3) 調査結果から分かること

教科に関する調査の平均正答率では、国語については全国（公立）と比べ、ほぼ同程度です。ただし、目的に応じて文章を整えるなどの思考力・判断力・表現力の部分については課題が見られました。

数学については、全国（公立）と比べ、やや低い傾向がありました。データの活用における知識・技能についてはおおむね習得している傾向が見られました。一方、ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明するなどの思考力・判断力・表現力の部分については課題が見られました。

理科については、全国（公立）と比べ、ほぼ同程度です。

質問調査では、生活習慣の定着や自分を肯定的にとらえる回答が高い傾向が見られました。また、人の役に立つ人間になりたいなどの人間関係についても肯定的な回答が多く見られました。一方で、家にある本の数については少ない傾向が見られました。

○三浦市 教科調査および質問調査の傾向について

児童・生徒質問調査の結果と教科（国語、算数・数学、理科）の正答率との関係について、教科の正答率が高い傾向が見られた質問等を抜粋し掲載します（相関関係があったものであり、必ずしもそれが因果関係を示すものではありません）。

次のような回答をした児童・生徒に、教科の正答率が高い傾向が見られる。

- ・分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができること
- ・学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、読書を30分以上していること
- ・これまでの授業で、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいること
- ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすること
- ・学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげていること
- ・授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりしていること

以上のように、学びに向かう粘り強さ、自力解決、自らの学習を次につなげる態度等が児童・生徒の学ぶ意欲、学ぶ力の向上につながることが分かります。